新横須賀市史　通史編　近現代　目次

序
発刊に寄せて
目　次
凡　例

はじめに　一
―本書の構成と概要―
1　横須賀の近現代と本書の位置
戦前のあゆみ　戦後の横須賀市　本書の位置付け
2　本書の内容構成
第一編　軍港都市の形成　第二編　都市化と地域社会
第三編　恐慌・戦時期の軍港都市　第四編　敗戦、占領から復興へ

第一編　軍港都市の形成

第一章　一六　地方行財政制度の確立
第一節　近代町村の成立……一七
1　明治の変革と町村

明治維新と三浦郡の村々　大区小区制と戸長制　民費の徴収　横須賀町の誕生
2　三新法体制期の三浦郡
県会・郡会・町村連合会　戸長役場と町村会　地方税と町村費用
3　兵事行政の展開
徴兵制と各町村　三浦半島への行幸啓と西南戦争
4　政治と選挙
明治地方制度と選挙　自由民権運動と横須賀
第二節　明治地方制度と町村……三九
1　町村制の施行と三浦郡
町村会と町村長　多様な役場事務　地方財政制度
2　兵事行政の進展
日清戦争と三浦郡の町村　日露戦争と三浦郡の町村
3　日露戦後経営と町村
町村税の滞納と財政政策　横須賀町の社会基盤整備　市制施行への道
4　政治と選挙
初期の衆議院議員選挙　県会議員選挙と地域

第二章　六〇　明治期の農漁業と商業

第一節　明治期の農業……六一

1　地租改正と明治初年の農村
地租改正と村々　明治前期の農業　牧畜会社
2　農会と農事改良
三浦郡農会の設立　浦賀町農会の事業
第二節　漁業組合の発足……七二
1　明治中期の漁法
三浦半島の旧慣漁法　漁業権と紛争
2　漁業組合と漁業権
野比漁業組合の発足　沿岸漁業の多様化
第三節　軍港都市の誕生と商業……八二
1　近世市場の解体
干鰯問屋・廻船問屋のゆくえ　商社政策と水揚商人　横須賀の初期商人
2　近代市場の形成
浦賀卸商の繁栄　明治期の軍港経済

第三章　六六　明治期の民間工業と交通

第一節　造船業……九七
1　浦賀船渠の創立
東京湾での船渠構想　浦賀船渠株式会社の設立

2　東京石川島造船所分工場の開業と譲渡
東京石川島造船所と川間進出　二船渠の競争と浦賀船渠への一本化
3　日露戦争期の発展
日露戦争と浦賀船渠　諸工業
第二節　交　通……二一〇
1　道路網の再編
幹線道と坂道改修　里道とトンネル開削
2　路上車両の登場
人力車　乗合馬車
3　航路と船舶
汽船航路　渡船航路
4　横須賀線の敷設と開業
構想と敷設　開業と利用
5　郵便・電信・電話
通信網の形成　電話事業の開始
第四章　二三四　国内充実期と対外進出期の軍事
第一節　軍事施設と諸機関の設置……二三五
1　鎮守府と軍港

横須賀造船所の海軍移管　海軍提督府の設置　東海鎮守府の設置
横須賀鎮守府の設置　東京湾要塞の建設　西南戦争と横須賀
海軍諸機関の整備と周辺地域
2　造船所の発展
艦船の建造　船渠と船台の建設　海軍水道の建設
第二節　日清・日露戦争期の横須賀……一六一
1　日清戦争
日清戦争と横須賀の義兵　戦勝下の横須賀
2　日露戦争
日露戦争と横須賀　海軍施設の拡充と横須賀海軍工廠

第五章　一七三　学校教育の開始

第一節　学校教育の開始……一七三
1　小学校の設立
浦賀郷学校の設立　学制頒布と小学校の設立　浦賀東岸・西岸小学校
2　小学校を支える仕組み
浦賀師範学校と教員養成　学校世話役と経費
3　小学校教育の展開
就学の督励　厳しい進級試験

第二節　小学校教育の普及……一九二
1　教育制度の整備と教育の普及
教育制度の整備　小学校令の施行と学校の統合　三浦郡教育会と教師
豊島小学校の沿革史から
2　強まる規制
学校儀式の制度化　学校規則の制定　日清・日露戦争と学校

第六章　三三　明治期の社会と文化

第一節　宗教と文化……二二三
1　明治期の宗教
神仏分離と地域信仰　社寺の改革　横須賀海軍とキリスト教
2　軍港の文化と風俗
浦賀から軍港へ　「軍港門前町」の形成　三浦半島と海水浴
第二節　軍港の形成と災害・救援……二三三
1　災害と救援
大火と風水害　消防組の設置　海難
2　衛　生
伝染病の流行　近代的医療機関の登場　ごみ処理と火葬場・墓地

■第二編　都市化と地域社会

第一章　三八　市政と地域社会

第一節　大正デモクラシー期の市政……二三九

1　市政の開始

第一回市会議員選挙と初代市長　最初の予算　周辺町村の状況

2　市政の混乱

初期の市政　輸入市長の誕生と市政

3　都市行政の展開

社会基盤の整備と都市計画の開始　財政難と海軍助成金　米騒動と社会政策

4　横須賀市と陸海軍

兵事行政の諸相　海軍水道と市営水道

5　政党と選挙

代議士小泉又次郎の登場　労働運動の高揚

第二節　政党政治期の地域社会……二六八

1　震災後の政治と社会

震災復旧への対応　震災復興事業と都市計画　稲楠土地交換問題

2　昭和初期の地域政治

不況下の社会情勢　緊縮財政

3　政治と選挙
第一五回総選挙と県会議員選挙　労働運動
第一六・一七回総選挙と二大政党政治　市会議員選挙
第一八回総選挙と県会議員選挙

第二章　二九二　多様化する農漁業と商業

第一節　近郊農業の発達……二九三
1　商業的農業の展開
米麦生産　野菜出荷と三浦大根
2　組合の組織化
三浦郡農会の農事視察　産業組合三浦興産会　畜産組合と競馬
第二節　漁業の多様化……三〇三
1　沿岸漁業と遠洋漁業
漁法と漁業組合　野比漁業組合の活動　三浦水産組合の遠洋漁業
2　魚市場の形成
市域の魚市場　長井村の魚市場
第三節　軍港都市の成長と商業……三一四
1　大戦景気の時代
軍拡期の商業　塩専売制と浦賀

2　不況と大衆経済の進展
軍縮期の商業　浦賀と田浦

第三章　三三〇　民間工業の展開と陸上交通の本格化

第一節　民間工業……三三一
1　浦賀船渠の困難と飛躍
日露戦後の不振　第一次世界大戦下の飛躍　不況下の浦賀船渠
2　諸工業の展開
第一次世界大戦期の発展　不況下の諸工業
3　電気・ガス事業の発展
電灯事業の開始　ガス事業の開始
第二節　交　通……三四六
1　横須賀線の変化
第一次世界大戦期　戦間期
2　湘南電鉄の登場
民間鉄道構想　湘南電鉄の開業
3　道路法の施行と震災復興
幹線道の整備と舗装　市町村道の整備
4　車と船

路上車両の「現代化」　船舶交通の衰退　地域流通の担い手

第四章　三七〇

海陸軍施設の変貌

第一節　日露戦争後の軍事施設の充実……三七一
1　海軍工廠と軍港
海軍工廠と職工　軍港の整備―浚渫・埋立・堀割
海軍水道の拡充と軍用地の整備
2　陸軍の変化
日露戦後の陸軍施設と上町　砲台の変化
第二節　第一次世界大戦期の軍の変貌……三八六
1　鎮守府隷下の変化
第一次世界大戦と海軍部隊　潜水艦・自動車の導入　海陸軍機関の演習
軍縮期の海軍工廠　海軍水道の拡充
2　航空機の導入
横須賀海軍航空隊の開隊　追浜飛行場の設置
3　大正時代の社会情勢と海軍
大衆化時代と開かれる海軍　廃兵器の下付　大本教と横須賀海軍
関東大震災と横須賀海軍　戦艦「三笠」の保存

第五章　四一四

義務教育の延長と中等教育の充実

第一節　義務教育の充実……四一五

1　迫られる施設整備

義務教育年限の延長　船越小学校の拡充　浦賀町の小学校　長井小学校など

2　教育内容の充実

浦賀小学校の一教室　体育・体操の重視　衛生への取り組み

新しい教育の展開

3　教育と行政

就学奨励と父母会　教育と行政

第二節　中等学校と各種教育機関の設立……四三九

1　市立高等女学校の設立と充実

市立高等女学校の設置　女学校の内容　県立移管

2　実科高等女学校の設立

女子技芸学校の設立　実科高等女学校

3　中学校の設立

県立第四中学校の設立　横須賀中学校の教育　私立中学校の設立

4　各種教育機関の設立

実業補習学校　幼児教育の開始　市立盲学校の設立

第六章　四六四

市制施行後の市民生活と文化

第一節　宗教と文化……四六五
1　社寺の再編
神社の統廃合　関東大震災と社寺復旧
2　軍港の文化と風俗
軍港横須賀の風俗　軍港観光の増加
第二節　関東大震災と横須賀……四七三
1　関東大震災
横須賀の被害　行政の対応　戒厳令と陸軍の活動　医療活動と罹災者の避難
慰霊から復興へ
2　公設消防の展開
横須賀の大火　消防組の活動
第三節　都市化の進展と衛生問題……四八九
1　疾病と医療
慢性伝染病の深刻化　医療機関の拡充
2　ごみ・屎尿処理と火葬場・墓地
ごみ処理　屎尿処理　火葬場と墓地

■第三編　恐慌・戦時期の軍港都市

第一章　五〇〇　昭和戦前期の市政

第一節　準戦時期の横須賀……五〇一

1　満州事変から日中戦争へ

恐慌期の市長と財政整理　土着市長と財政政策　大横須賀の建設

恐慌下の横須賀　準戦時期の市政と市長

2　選挙粛正運動の展開

第一九回総選挙と小泉又次郎　県会議員選挙　第二〇回総選挙　市会議員選挙

第二節　戦時下の横須賀……五二〇

1　日中戦争から太平洋戦争へ

日中戦争期の市政と財政　岡本市長の誕生と翼賛体制の形成

大軍港都市の建設と財政　戦時下の市政と銃後体制　軍都の疎開政策

2　翼賛選挙

第二一回総選挙　市会議員選挙

第二章　五四〇　恐慌・戦時期の農漁業と商業

第一節　恐慌・戦時期の近郊農業……五四一

1　恐慌の影響

昭和恐慌と市域の農業　野菜栽培の発達
2　戦時下の農業と農村
三浦半島の農産物　作付統制と野菜増産　供出とヤミ
第二節　軍港と漁業・漁村……五五五
1　恐慌期の漁業
軍港地区の漁業　漁村の更生
2　戦時下の漁業と漁村
鮮魚の出荷統制　戦時下の軍港と漁業
第三節　恐慌・戦時期の商業……五六二
1　不況対策
恐慌と横須賀市街地の商業　さいか屋の復興　海軍工廠工友会と小売業者
2　戦時下の商業
商業統制　買出部隊と取締　応召商家の支援と転業

第三章　五七六　昭和戦前・戦時期の民間工業と交通

第一節　民間工業……五七七
1　浦賀船渠
営業の活発化　戦時下の浦賀船渠
2　諸工業の展開

諸工業の発展　戦時下の諸工業
第二節　交　通……五八五
1　湘南電鉄から京浜電鉄へ
鉄道事業　バス事業との競合と兼営
2　戦時下の交通
鉄道　バス
3　戦時下の電気・ガス・通信事情
電気・ガス事業　郵便局

第四章　六〇〇　戦時色を強める市内と軍事機関

第一節　準戦時・戦時期の市内……六〇一
1　日中戦争前後の状況
海軍航空廠の設置　市街地での模擬戦と演習　日露戦争の記念式典と時局
諸事件と横須賀鎮守府
2　日中戦争と市民
大規模化する国威発揚式典　戦死者の帰還
3　日中戦争と海軍工廠・水道
秘密にされる軍施設　非常時の海軍工廠　海軍諸施設の求人募集
逼迫する給水事情

第二節　戦時期の横須賀鎮守府……六二四
1　横須賀鎮守府と太平洋戦争
海軍諸機関の日常業務　横須賀鎮守府の警備体制
戦時下の横須賀鎮守府の活動　ドゥーリットル空襲
2　戦時下の海軍工廠と航空技術廠
海軍航空技術支廠の設置　追浜海軍航空隊と相模野航空隊　戦時下の海軍工廠
第六船渠の建設と建艦事業の消長
3　戦争末期の横須賀
横須賀空襲　海陸軍の防空体制と本土決戦

第五章　六五六

昭和戦前期の教育

第一節　忍び寄る戦争の影……六五七
1　小学校教育の展開
児童増加への対応　船越小学校　大津小学校の教科指導案　進学と就職
2　中等教育と社会教育の充実
中等教育機関の充実　中等学校への進学と進路　青年学校の設立
青年団の設立と活動
第二節　戦時下の教育……六八〇
1　小学校から国民学校へ

戦時下の学校　迫られる校舎増築　学童疎開
2　戦時下の中等教育
工業教育の拡充　戦時下の生徒たち

第六章　六四

恐慌・戦時期の社会と文化

第一節　宗教と文化……六九五
1　時局と宗教
東郷神社の招致運動と神社昇格運動　戦時への対応と宗教団体法
2　戦時体制下の文化と風俗
軍港と観光　軍港と風俗　横須賀の史蹟　横須賀文化協会
第二節　戦時下の軍港と災害・救援……七〇六
1　消防組から警防団へ
消防組の再編と大火・豪雨　警防団と防空
2　戦時体制と衛生行政の変質
保健と健民　医療機関の増設と限界　ごみ・屎尿処理と火葬場・墓地
3　戦前の社会事業
軍関係および私設団体の事業　市による各種事業

■第四編　敗戦、占領から復興へ

第一章　七二六　占領と横須賀

第一節　連合国軍の上陸……七二七

1　横須賀上陸

上陸作戦と部隊の編成　L―DAY

2　占領軍の犯罪と武装解除

上陸軍の犯罪　占領下の横須賀基地

3　残務処理からSRFへ

軍港都市横須賀の武装解除　SRFの誕生

第二節　軍港都市からの転換をめざして……七四五

1　軍港都市からの転換

更生計画の策定　転換計画の策定

2　旧軍港市転換法による「転換」の進行

旧軍港市転換法の成立　軍転法とまちづくり　「転換」の進行

軍転法のその後

第三節　旧軍の清算と自衛隊の発足……七六四

1　軍から民へ

海軍水道の移管　消滅する鎮守府　浦賀・久里浜における復員・引揚

荒廃する「三笠」と復元される「三笠」
2　自衛隊の創設
陸上自衛隊の発足　海上自衛隊の発足　横須賀の海上自衛隊
3　自衛隊教育の開始と横須賀
草創期の陸上自衛隊教育　草創期の海上自衛隊教育
保安大学校・防衛大学校の開校　武山地区の陸海教育活動

第二章　七九二

戦後市政の展開

第一節　梅津市政と占領軍……七九三
1　敗戦と横須賀
敗戦と市民　市の対応　占領軍の受け入れ
2　基地と市政
米海軍横須賀基地司令部　デッカー司令官　ヒギンス軍政官　新生婦人会
自治体警察
第二節　戦後市政の出発……八〇七
1　民主化の動向
天皇巡幸　食糧危機　町内会の解散
2　革新勢力と政党
戦後労働運動の高揚　政党の復活

3　復興への道のり
復興計画の開始　財政の膨張と逼迫　公職追放と梅津市長の退任
太田市長とドッジ・ライン

第三節　復興期の市政……八三一

1　石渡市長の登場
行政整理と赤字財政　逗子町分離と浦賀への波及

2　独立の回復と市政
朝鮮戦争とその影響　逆コース

3　講和と市政
講和・安保条約と横須賀　梅津市長の再登場　平和産業都市へのジレンマ

第四節　高度経済成長期の市政……八三五

1　長野市政の登場
講和後の政治状況　保守派の混乱　革新系市長の誕生

2　長期市政の動向
市長選挙（再選～四選）の状況　市議会の状況

3　施政とその方針
市民政策　総合開発・産業振興

4　安保と基地問題
自治体外交　接収解除の取り組み　安保体制と市政

第三章　八六〇

戦後の農漁業と商業

第一節　戦後改革と農業・農村……八六一

1　食糧危機と農地改革

ヤミと供出　軍港都市の農地改革　農業の復興

2　近郊農業の復興と農村生活

野菜栽培と酪農　農村の生活改善

第二節　戦後の沿岸漁業と遠洋漁業……八七一

1　漁業制度改革

漁業協同組合の設立　市域の沿岸漁業

2　戦後軍港地区の漁業

軍事施設の存続と補償　マグロ遠洋漁業基地久里浜港　捕鯨船団基地長浦港

漁村の変貌

第三節　戦後の商業……八八四

1　商業の復興

ヤミ市・マーケット　統制撤廃、青果物取引とさいか屋

2　横須賀商工会議所の設立

設立をめぐる新旧勢力　商工会議所の活動

第四節　高度経済成長期……八九三

1　変貌する農業・農村

農業の後退　生産基盤整備事業
2　沿岸漁業と遠洋漁業の消長
遠洋漁業の後退　沿岸漁業の基盤整備
3　人口増加と商店街
三笠銀座の共同ビル化　商店街のゆくえ

第四章　九〇八

昭和戦後期の工業と交通

第一節　転換工場の時代……九〇九
1　軍需から民需へ
海軍施設から民間工場へ　浦賀船渠の復興
2　米軍軍需と特需会社
再接収と企業　富士自動車
3　電気・ガス・交通の復興
電気事業　ガス　交通機関
第二節　高度経済成長期……九三三
1　諸工業の発展と発電
諸工業の発展　久里浜の火力発電と核燃料生産
2　自動車工業・造船業の展開
関東自動車　日産自動車　浦賀船渠

3　長距離通勤と交通
鉄道　自動車交通の発展とバス利用

第五章　九三六

昭和戦後期の教育

第一節　教育の戦後改革……九三七
1　民主化教育の開始
戦前教育からの脱皮　六・三制教育の開始　新教育の展開
2　戦後教育の展開
不正常授業の解消　公立高等学校への転換　諸学校の動向
戦後教育をとりまく問題
第二節　高度経済成長期の教育……九六一
1　逆コースと新しい動き
管理強化への動き　社会教育の展開
2　高度経済成長期の学校
小中学校の動向　諸学校の動向

第六章　九七四

戦後の社会と文化

第一節　戦後改革と社会……九七五

1　戦後改革と宗教

神道指令と社寺　忠魂碑の撤去問題

2　観光・文化の再生

観光・文化都市へのあゆみ　ペリー上陸記念碑と明治憲法起草地記念碑

3　米軍進駐の影響

スーベニアショップとEMクラブ　特殊慰安施設と街娼　風紀取締条例の制定

第二節　戦後の災害と衛生問題……九九二

1　消防と災害

消防団の再編と自治体消防の発足　火災と水害

2　医療と衛生

保健所と医療機関　ごみ処理と屎尿処理

第三節　高度経済成長期の社会と文化……一〇〇四

1　観光と文化

観光施設と行事　文化協会の再発足と文化会館　ベトナム戦争とどぶ板通り

2　防災と治安

火災と水害　公害・交通戦争・地震対策　米軍兵士の犯罪

3　医療と衛生

救急医療と国民健康保険の実施　戦後の上水道事業
ごみ・屎尿処理と火葬場・墓地
4　社会福祉事業の展開
制度の概要と生活保護　さまざまな福祉　諸団体の活動

第七章　一〇四三

住宅都市・基地の街横須賀

第一節　米軍基地と自衛隊……一〇四三
1　米軍基地と横須賀
SRFの技術と労働環境　米軍基地と環境問題　「9・11」と基地の再編
米軍基地のイメージと市民
2　自衛隊と横須賀
横須賀の自衛隊　市民と自衛隊　開かれた自衛隊へ
第二節　人口増加とまちづくり……一〇六七
1　人口増加と宅地開発
住宅問題の深刻化　宅地造成と団地の建設　大規模開発と人口の推移
2　まちづくり計画
総合開発計画の策定　人間都市横須賀構想と開発行政

口絵・扉絵一覧……一〇八一
引用・参考文献一覧……一〇八二
横須賀市域人口・戸数統計……二一〇八
横須賀市財政統計……二一八
あとがき
執筆分担
史料提供者・協力者
横須賀市史編さん関係者名簿
『新横須賀市史』発刊計画（全一五巻）